



森のなかま

2023年 3月号

NO. 177 (継続322号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

自然観察部会活動報告

冬の探鳥研修会

開催日： 2023年1月7日(土) 9:30 ~ 14:30

場所： 相模川 「相模大堰 右岸」

講師： 松永 廣^⑪

参加者： 内野^⑨ 湯浅^⑪ 小池^⑫ 松石^⑬ 牧石^⑭ 河西^⑮
内田^⑰ 小俣^⑰ 高谷^⑰ 藤田^⑰

(記 松石 藤夫^⑬ 写真 小池 哉^⑫ 河西 静夫^⑮ 小俣 慈^⑰ 高谷 秀史^⑰ 松石 藤夫^⑬)

青く澄み渡った空に風がほとんど無いと言う絶好のバードウォッチング日和に恵まれました。
今回の観察場所は、冬の観察地として多くの探鳥マニアに親しまれているところです。河川敷の藪に住む里の小鳥と川面でくつろぐカモ類などの冬の渡り鳥を近距離で観られることが特徴です。



モズ



メジロ

また、上空を舞う猛禽類に出会える機会が多いことも魅力のひとつです。

厚木市の酒井スポーツ広場が集合場所で10名の方が参加しました。

17期生の方が4名参加です。自己紹介の後、観察開始です。

早速、芝生のグラウンドで餌を探すタヒバリに会い、その後、ホオジロ、ツグミ、ヒヨドリ、メジロ、モズなど次々に姿を見せてくれました。藪の中にいる野鳥は動作が速く、アオジ、ウグイスなどを瞬時に双眼鏡でとらえるには経験が必要ですが、今回は初心者の方にも良い体験教材が得られたのではないのでしょうか。



上空を舞うノスリ



昼食後は松永講師のミニ講座

「カラスは悪者扱いされがちですが、生態系の維持と言う視点で見ると一役担っている」
・・・納得です。



カンムリカイツブリ



オカヨシガモ



コガモとオオバン



マガモ

上流に進むに従い、水面に多くの水鳥を観ることが出来ました。カモ類、カイツブリ類、サギ類、クイナ類、シギ類、カワウなどで合計 17 種が観られました。大堰の水面は流れが緩やかで、くつろぐ様な水鳥が多く、動きが少ないので、初心の方でも十分に楽しめました。一方、上空を舞うハヤブサの姿に、突然コガモの群れが飛び上るのを見ると、自然の中での天敵に対する感度の鋭さを見せて貰った気がしました。

猛禽類も観察できました。モズ、トビ、ノスリ、ハヤブサでした。



アオサギ



ダイサギ

好天に恵まれた影響もあって鳥の出現が多く、39 種（外来種 1 種）が観察されました。比較的観やすいカモ類の観察から、経験者でも難しい上空の猛禽類の同定まで参加者各人の経験に合った観察が出来て有意義な研修会になりました。また、参加の皆さんは明るい雰囲気でも会話も弾み、17 期生の新人を加えての親交の場としても楽しめた研修会でした。

< 自然観察部会 >

「森林探訪」

日時： 2023 年 2 月 4 日 (土)

場所： 田代向～寄バス停、 寄ろうばい園

参加者： 34 名

インストラクター： 西岡⑭、牧石⑭、久次米⑯、小池⑰、赤崎⑱

(記 小池 宗子⑰ 写真 河西 静夫⑱)

立春の 2/4 富士の演習場では野焼きが行われ、そのせいか遠くの山は春霞でした。霞は昼の呼び名で夜は朧(おぼろ)となるそうで、日本語は風流ですね。寄は心地よい風がロウバイの甘い香りを運んで絶好のハイク日和となりました。当日はハイカーが多く、新松田発寄行きバスは 4 台もの増便がたほどでした。集合場所では、ダイサギが歓迎してくれました。セキレイ御三家やアオジも嬉しそうに迎えてくれました。足元には、オオイヌノフグリやふきのとうも顔を出し、水辺ではヤマアカガエルの卵がおたまじゃくしになっていました。動物のぬた場やカンアオイ、クロモジなどに参加者は興味津々でした。霜柱の場面で「シモバシラ」という植物のことも話せばよかったと後から思いました。先輩インストももっと説明したかったとプロ意識の塊でした。アンケートでは、桜の季節にも企画して欲しいという声が多々ありました。参加者は笑顔で寄を後にされたので、私たちの日頃の努力が報われた瞬間でした。



けもの道の説明



冬芽の観察



ろうばい園



活動短信

今回の掲載はR4年11月12日から11月27日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

3月(弥生)(旧暦2月如月)の 二十四節気と雑節

二十四節気 : 啓蟄 3/6 春分 3/21

雑節 : 彼岸 春分の日をはさんだ7日間 彼岸会など仏教との関係が強いが、日本独自の行事のようです。暑さ寒さも彼岸まで。春本番です。

田んぼでは今シーズンの準備が始まります。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日付(できれば時間と天気も)

場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参加者 人数

例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ いすゞ自動車株式会社 藤沢工場 「間伐、ベンチ作り」

日 令和4年11月12日(土) 10:00~15:00 晴

場 やどりき水源林

参 10名

県 水源環境保全課 村田様 黒田様

イ L上田⑩ 小笠原⑩ 大友⑩

インストラクターは9時30分現場集合し、本日の活動の内容について打ち合わせを行った後、ゲートを開き参加者の到着を待った。予定通りの時刻に参加者が到着した。マイクロバスと自家用車1台を入場させ森の案内人に本日の活動の概要を報告し倉庫脇の広場に集まり開会式を行った。水源環境保全課村田様より挨拶があり活動が始まった。おのおの使用する道具を身につけて活動場所(成長の森19-10, 11)に向かった。落葉した木々の梢の先からまぶしいほどの陽光を受け気持ち良く林道を登って行った。後沢合流の少し上流部に仮設足場をかけ渡渉し成長の森にとりついた。

A,B,C3 班に分かれて成長の森植生保護柵内に入り、選木されたカツラの木の間伐を行った。選木している数が少なかったため時間が余る予測をしていたが、間伐、枝払い、玉切り、片付けと丁寧に作業を進めたため作業のめどがついたのは12時少し前であった。



昼食をとるため尾根筋に向かい、見晴らしの良いピークで午後からはこの付近にある間伐材を利用して休憩用のベンチを作る計画であることを話し、みんなでどのようなものを作るか考えてもらった。鍋割山方向の色づいた山々を楽しみながら昼食を楽しんだ。さて、みんなの考えたイメージでどのようなベンチができるか楽しみでした。材を選び、運び、切断し、組み立てる。各自得意な分野で働き、知恵を出し、力を発揮し大きな丸太を切断し、レベルを見ながら組み立ててゆく。どうなるのかと少し心配していたが、やはりモノづくりの現場で活躍している人たちの、センスと工夫によって思った以上のベンチが完成した。完成したベンチに座って記念写真を撮り下山した。渡渉の折今日間伐した桂の小枝で川の中の水の流れる音を聞く体験をした。ゆっくりとした時間の中で予定した活動がすべて体験でき、参加した皆さんの満足した顔を見ることができたこと。事故怪我もなく無事活動を終えることができました。



(記、写真 上田 啓二⑩)

◆ 横浜市立今宿小学校 愛川ふれあいの村 自然体験学習

日 令和4年11月17日(木) 9:30~12:00 晴

場 県立愛川ふれあいの村

参 先生11名、児童86名、計97名

財 古舘様

イ L 西岡⑭、小野⑦、野牛⑧、内野⑨、松山⑩、松本⑪、西出⑫、河西⑬、久次米⑬、佐藤悦⑬、中村⑬

今宿小学校4年生の自然体験学習は2日間の宿泊行事で、私たちは2日目の丸太切りと自然散策を担当しました。児童全員が丸太切りと自然散策ができるよう前半と後半で入れ替えし、自然散策はさらに「植物」「生き物」「五感」の3テーマで班分けして、児童は希望したどれか

のテーマの班に入りました。筆者は前半、後半ともに「生き物班（各9名）」を担当。内容としては、山を見ながら班の児童たちに昨日行ってきた宮ヶ瀬ダムの感想を聞き、家の水がどこから来るのか、木と山が水源としてどう働いているかを説明しました。児童からは、緑のダムのことや木の持つCO2貯蔵効果について知っていると言が上がり、良く勉強していると感心しました。その後の散策は、スタート時に「生き物を探しながら歩いてね」とお願いしたところ、スイッチが入った数名の児童が次々に獲物を見つけてくれました。季節柄あまり期待できなかった昆虫類を観察ケースに入れて観察することができました（ヨコヅナサシガメ、ツチイナゴ、マダラスズなど）。また、カツラやサンショウの葉の匂いを嗅いで感想を言い合ったり、倒木に発生したキノコを囲んでキノコの分解者としての役割を話したりすることができました。

一方、植物班ではイロハモミジの種子がどうやって飛ぶのかを調べたり、五感班ではブルーシートに寝ころんで普段見ることのない景色を体験したりと、各班で色々な体験を通じた発見がありました。丸太切りでは、鋸をどのように使うかを習いながら、安全に、協力して木を切ることができました。（記 河西 静夫⑮）

◆ 株式会社カナエル 竹林整備作業

日 令和4年11月17日(木) 9:40~12:00 晴れ
場 21世紀の森 竹の展示林
参 大人10名
具 環境農政局水源の森林推進グループ 岡田様、岡本様
イ L 牧石⑭、齋藤⑧

11月17日(木)約二年半ぶりに「株式会社カナエル 竹林整備作業」が実施された。10時~開始予定でしたが、9時30分には全員が集合され、9時40分~開会式、県担当者挨拶、インストラクター紹介、準備体操を実施した後、具倉庫前に移動。参加者の皆様に倉庫より用具を搬出して頂き、用具装着後、約5分移動し竹の展示林に到着。竹の展示林・作業道は竹に覆われ、先が見通せない状態の中、参加者10人が安全スペースを確保したのち一斉に作業に入った。

11時~約15分間の一斉休憩を取ったのち11時50分まで作業を実施し、林道幅約2m、長さ約50mが



見通せるまでに竹林整備ができた。

活動場所をバックに記念撮影後、用具倉庫前に移動し、用具の整備、倉庫に用具返却後、皆様より感想を聞かせていただいた。「周囲が明るくなり気持ちが良い」

「コロナ禍で
 徐々に活動が出来て良かった」
 「もう少し作業をしたかった」
 「疲れた」等の感想をいただき無事終了した。



(記、写真 牧石 稔⑭)

◆ 第14回 県民参加の森林づくり活動 枝打ち

日 令和4年11月19日(土) 9:00~13:00 晴
場 小田原市久野(今井野)
参 51名(初参加 5名)
財 倉野様、藤本様
看 佃様
スタッフ 小田原市森林組合 城所様、高橋様
イ L 鈴木敏⑧、菊池①、山崎⑦、木村⑭、大橋⑩、柏倉④、滝澤⑤、石川⑫、西出⑫、藤代⑬、水野⑭、古館⑬、堀口⑯、岩田⑭、大岡⑮、岡村⑯

小田原こどもの森公園「わんぱくらんど」近くの10年生の少花粉ヒノキの枝打ちを行いました。当日は、雲ひとつない晴天に恵まれ、小田原駅から5台のバスに分乗し、現地に移動しました。立冬を10日以上経過したにもかかわらず、暖かな絶好の枝打ち日和となりました。途中2台目のバスが行方不明となるアクシデントがありましたが、ほぼ定刻通りにオリエンテーションを開催し、作業を行いました。

新型コロナウイルスの第八波の影響か、当初予定の参加者58名に対し、51名の参加者となりましたが、5班に分かれ、約0.33ヘクタール 約1,000本のヒノキの枝打ちを完了することができました。



Before (藪曹ぎの状態でした)



After (スッキリしました)

下枝が生い茂った暗い森が、明るく風通しの良い状態となり、参加者に作業の達成感を味わって頂くことができました。

最近の県民参加の森林づくりの活動は、ベテランの方の高齢化に伴う減少と、初心者・若者等の参加が多くなり、世代交代が感じられます。新しい人が、リピーターとなり常連メンバーとなるよう、魅力のある活動を心掛けたいと考えます。
(記、写真 水野 安則 ⑭)

◆ 相模原市立中野小学校

環境・エネルギー-学校派遣事業～かながわ環境教室～

「水の中の生き物ウォッチング」

- 日 令和4年11月18日(金) 10:00～12:30 晴
- 場 中野小学校(相模原市/校内の池・プール)
- 参 特別支援学級の1～6年生15名、教師5名
- イ L井出①、高橋③、堀江④、足立④、内野⑨

当初は校内のビオトープ池で生き物採取を行う予定でしたが、下見時、池には水面が見えないほど水草が繁茂しており、採取には向かないことが分かりました。そこで、急遽プールを確認したところ、オタマジャクシやヤゴが確認できたので、池(本番までに水草を抜いておいてもらう)およびプールで実施することとしました。

下記手順で授業を実施。

1. 池およびプールで、手網、たも網を用いて生き物を採取。
2. 採取した生き物を教室に持ち帰り抽出と観察。
3. まとめの講話では、池やプールで見つかる生物、生き物のつながりなど、動画を交えて講話を行いました。

特別支援学級の1年生～6年生の全学年が対象ということで、レベル合わせに苦労しましたが、生物採取や、動画での解説など、全学年興味を持って授業を行うことができたと思います。

なおプールで見つかったオタマジャクシは、特定外来生物のウシガエルのオタマジャクシだった



ため、駆除する必要があります。環境破壊する生き物なので、学校としては、子供達(生態系について理解が得られる上級生)も加わり作業を行いたいとのことなので、後日我々講師も協力して駆除することにしました。

(記、写真 井出 恒夫 ①)

◆ トキコシステムソリューションズ株式会社様

「第1回未来へつなぐトキコの森」 森林再生活動

- 日 令和4年11月19日(土) 10:00～12:00
- 場 山北町世附水源公有林・丹沢湖畔
- 参 12名
- 県 村田様、黒田様
- イ L上田⑩、坂井⑮、大友⑯

小春日和で秋晴れの丹沢湖畔は紅葉と緑と青空の絶妙なグラデーションが美しい絶好のロケーション。トキコシステムソリューションズ(株)は2021年11月に森林再生パートナーとなり、「神奈川県森林と当社がともに未来に向かって繁栄するように」との思いを込めた「未来につなぐトキコの森」での活動デビューです。

オープニングでは、「未来につなぐトキコの森」看板の前で参加者12名の記念写真を撮り、間伐班と自然観察班で活動をスタートしました。

自然観察班(6名)は、世附林道を三保ダムに向かって歩き、世附大橋を渡り、県道山北山中線を世附川橋に向かって散策しました。紅葉は盛りを過ぎ山の頂あたりは落葉していて、冬準備ができた茶色の山の端と澄みきった青空を見て季節の移り変わりを感じながらの自然散策でした。かながわ森林再生50年構想に示された、神奈川の森づくりについて、また杉とヒノキの森の見分け方、人工林と天然林の違い、人工林の手入れなど、山を見ながら次々に飛び出してくる質問に答えながら約3Kmの道のりを1時間半で歩きました。次回の散策ルートについてのリクエストなどもあり、小春日和の中での散策を楽しみました。



間伐班(6名)は、全員が間伐初体験。始めに原則山側での作業や立入禁止エリア等の安全留意点と伐倒方向・受け



口/追い口の決め方など技術指導を行いました。次に全員でスギ(胸高直径約25cm、樹高約12m)に間伐鋸を入れ、伐倒方向の目標をやや外したものの、伐倒の迫力に歓声が上がりました。リーダーが切り口を観ながらの解説と反省を行い、参加者から技術的な質問や「森林の整備の大切さが判って有意義だった」とか、「間伐は想像以上に疲れた」等の所感を頂き、森の中で心地よい汗を流すことが出来ました。

第1回の活動は少数精鋭での参加でしたが、今回の活動での体験を社内で啓発して頂き、2回目、3回目は未来志向で多くの方に「トキコの森」整備を継承して頂きたいと思えます。

トキコ様スタッフ様・県職員に感謝申し上げます。

(記:大友 博道⑩、写真:上田 啓二⑩)

◆ 鶴岡八幡宮 槐の会自然環境保護活動

日 令和4年11月20日(日) 9:00~14:30

場 やどりき水源林

参 11名

県 県水源環境保全課 武田様、他1名

スタッフ 槐の会 久田様 高橋様 他1名

イ L山下⑩、若林⑦、真貝⑩、山口⑩、安井⑫、笠原⑭

4年ぶりに鶴岡八幡宮槐の会様の自然環境保護活動がやどりき水源で実施されました。

前日の天気予報は降水確率80%と心配なお天気でしたが、主催側のご担当者様と県と協議の結果、しっかりした雨対策をとることで開催を決定しました。当日は森林活動に意欲的な大人11名が参加されました。

午前、降雨に備えて作業を見直し、延寿の森で二班に分かれ、一班は森の経路の整備・補修、もう一班は枯れ枝などの整備をしながら枝を見栄えよく積み上げアニマルヘッジを作る作業です。参加者の皆様は常連の方も多く、安全に注意しながら黙々と作業を進めていくことができました。森を整備したことにより、林内は歩きやすく、すっきりとした景観に変わりました。

お昼が近づいてくると今にも雨が降りそうな空模様となり、午後は早めに、森林癒やし体験、やどりき水源林の散策、そしてクリスマスリース作りの三つのコースに分かれてスタートしました。このことが功を奏し、全てのコースが終わりに近づく頃に雨が降り出し、本降りになる前に終えることができました。天気を心配しながらの活動でしたが、参加者の皆様が笑顔で帰る姿を見送ることができました。(記 笠原 かずみ⑭)

◆ 第15回 県民参加の森林づくり活動 除伐

日 令和4年11月27日(日) 9:00~13:00 晴

場 秦野市千村 頭高山(ずっこうやま 303m)

参 38名(スタッフ含め 約60名)

財 江坂様、藤本様

看 佃様

スタッフ 秦野市 腰塚様、千村共有地管理組合 谷様他

イ L山下⑩、佐藤⑤、湯浅⑩、松本⑩、岩田⑭、牧石⑭、末原⑮、佐藤⑯、中澤⑯、松浦⑯

集合時間には11℃と涼しかったですが、作業時は18℃で快晴で「森づくり日和」でした。インストラクター打合せでは本日の安全目標は「周囲と頭上確認!」です。ナラ枯れ等の枯損木の転倒、落下の可能性を考慮しました。雨天順延の予備日のため参加者38名と少数精鋭での作業となりました。バスで約30分で到着後、5班に分かれ、班ごとに徒歩で20分移動。作業道具を準備しさらに徒歩5分で現地に着。オリエンテーションでは秦野市より森林観光都市秦野を紹介頂きました。春は八重桜・秋は紅葉が綺麗な



ハイキングコース、八重桜の塩責けなどなど。作業はハイキングコースからの下り斜面での活動でした。樹高3m以下の樹木と笹などを伐採しました。ハイキングコースからの景観がとても綺麗になり見通しが良くなりました。作業後は303mの頭高山(ずっこうやま)の頂上を経由しました。昼食時には青パパイヤ、千村みかん、おしるこなどを頂きました。鋸と剪定ばさみの手入れをして活動終了。ケガの方も無く、紅葉と晴天での気持ちのいい作業でした。

(記、写真 松浦 正⑯)

森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次掲載は4月号です。

森のめぐみ シリーズ

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

3 月からの森の案内人を始めました。今年からの新しいメンバーも加わり、案内人一同皆様の訪問をお待ちしています。

ミツマタの花が見頃です

3 月中旬が見頃です。
森の案内人がご案内します。



お問い合わせは、
水口へメールにてお願いします。
E-mail:
mina109shinrin@gmail.com

●やどりき水源林問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

(かながわ)森林インストラクターの会

ホームページ <http://www.forest-kanagawa.jp>

E-mail k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

(@は半角@に置き換えてください)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

人も自然もいきいき丹沢

丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の
ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP 担当: 大友 博道)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel : 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫

Mail: tspocket17@gmail.com

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★インストラクター会員も 17 期生も活動を始めました。1 期生はもう 33 年以上になりますがまだ元気に活動している方が多々いらっしゃいます。しかも皆さん第一線で先頭に立っています。後身たる身も兜の緒を締めないと・・・

一方、世の中はスマホとインターネットの普及でインフラが様変わりの進歩をしています。

会報も紙媒体から SNS へのチェンジが迫られていると感じます。若い会員諸子の 21 世紀の視点からの変革を大いに期待する次第です。

続けるべきものは続け、変えるべきものは変えよう。 (吉田)

★夕方 5 時を過ぎても、窓の外は薄っすらと明るく、日が長くなってきたなあ〜と春が近づくのを感じています。 (笠原)

★まだまだ寒い日もありますが、雨水(24 節気)の頃から雨が降り始め、一雨ごとに春に近づいている感じがします。

鎌倉の田んぼでは、1 月下旬から雨が降るタイミングでヤマアカガエルと、ニホンアカガエルが同時に産卵します。生態系保護のための田んぼなので、卵塊数に一喜一憂しています。

このあと、4 月にはシュレーゲルアオガエルの産卵、6 月にはアマガエルの合唱と続きます。 (黒川)



アカガエルの卵塊 ヤマアカとニホンアカの卵の見分けは難しい



緑の募金
シンボルマーク



緑の募金キャラクター
どんぐりくん・どんぐりちゃん

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で 5 番目/NPO 法人で初めて委嘱されています。

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。 便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**宛まで 2000 円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から 12 回/1 年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ

阿藤壽孝 長尾晴子 竹内明彦

柳澤千恵美 小林照夫 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子